2024_0909「ノウタケ（写真）」日々の理科 3686 号

お茶の水女子大学　サイエンス＆エデュケーション研究所　田中　千尋

・

前回紹介した「オニフスベ」はもともと「ホコリタケ科オニフスベ属」に分類されていました。近年、キノコ（真菌類）の系統学的な研究が進み、昔の図鑑とは分類が大きく変わった種類やグループがあります。現在オニフスベは、「ハラタケ科ノウタケ属」に分類されています。

ノウタケとは「脳茸」の意味です。そういう種名のキノコが存在するのです。ノウタケはオニフスベよりはずっと小型ですが、やはりシイタケのような傘は持たず、テニスボールぐらいの茶色い球状の子実体を、短い柄が支えているという、異形の姿をしています。成熟すると子実体の表面にしわが現れ、脳のように見えるのでノウタケなのです。

オニフスベを「見学」したあと、私は近くに「本家のノウタケ」もあるような気がしていました。こういう勘は結構当たるものです。帰り道の段丘崖の斜面に、果たしてノウタケが２本生えていました。一つを縦に割ってみると、菌体はすでに成熟していて、古綿状の菌糸が胞子まみれになっていました。これからは秋のキノコシーズンなので、植物園でも足元や樹木の根元に注意しながら歩きたいと思っています。

（2024 年 9 月上旬／小石川植物園）